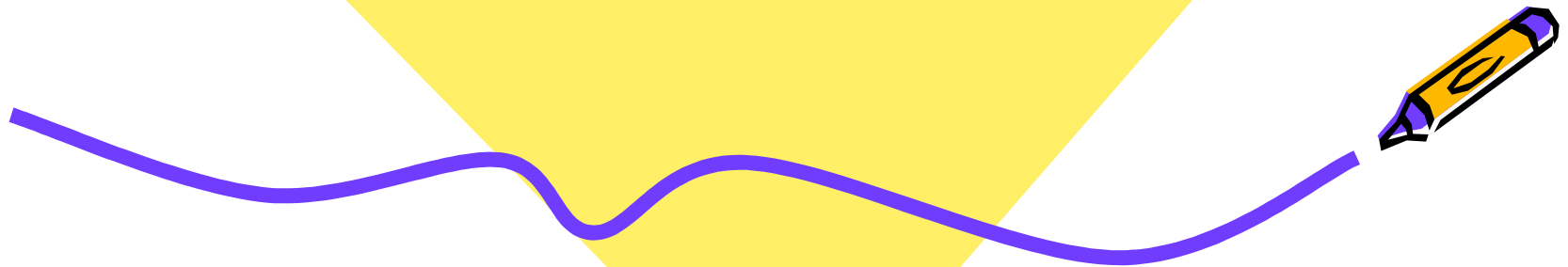


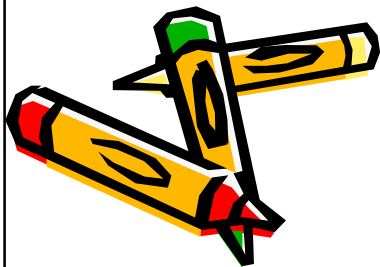
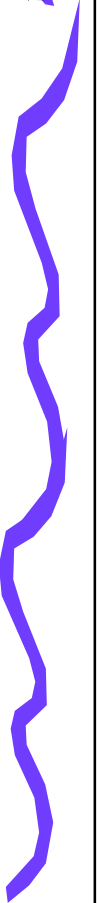
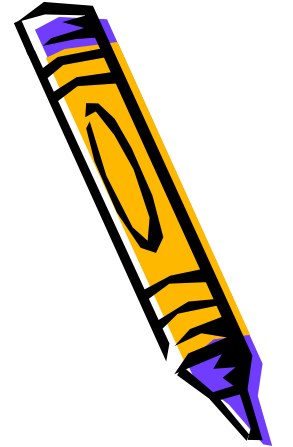
アセスメントツールWG
ご紹介

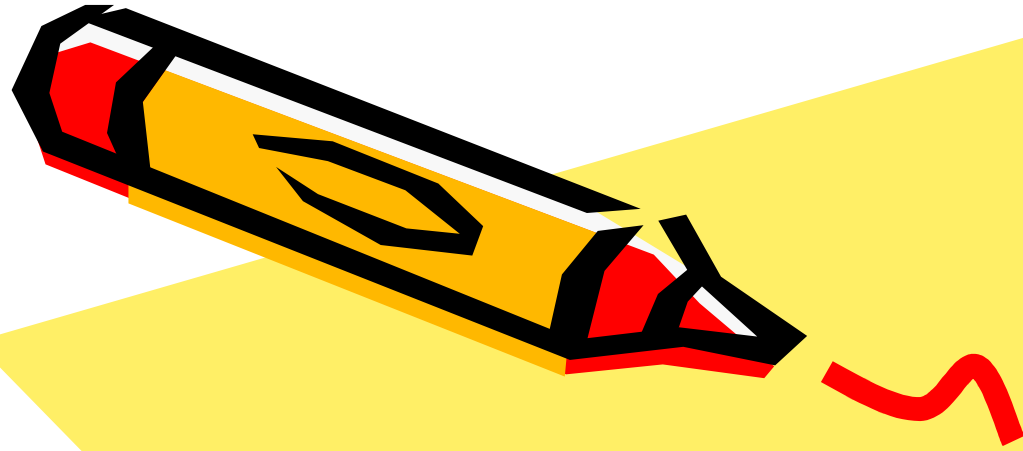


2014年4月19日

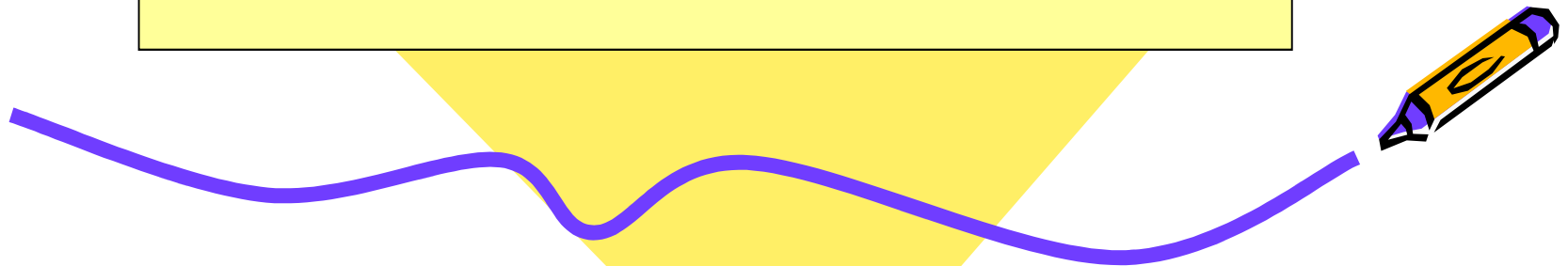
Agenda

- **アセスメントWGとは？**
- **共通フレームワークとは？**
- **こんなアセスメントツールを作りたい！**
- **共通フレームワーク勉強会のご案内**





アセスメントWGとは？



目的

そもそも、

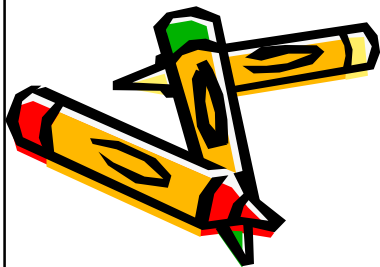
アセスメントツールWG

という名前ですが、何をアセスメントするのでしょうか？

アジャイルプロセスが適用可能な

環境

が整っているかどうかをアセスメントします。



エンジニアはかく語りき



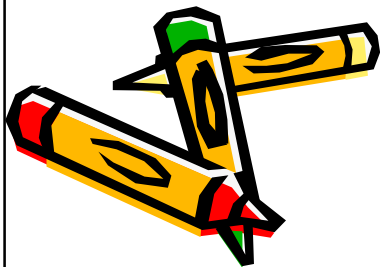
は？環境？

知識は？技術は？大事なものはそっちだろ！

そんな罵倒、いや考えが頭をよぎったアノタは要注意かもしれません。

「我、とまあええずやってみる！」

アクティブな姿勢は素晴らしいです…が。



茨の道って好きですか？

現実にはツライよ



偉い人が「アジャイルっていいらしいな！ウチでの是非取り入れろ！！」
って言えばアジャイルできる？
超絶技巧を持つ**鉄人エンジニア**がいたらアジャイルできる？

無理だと思うよ～

アジャイルプロセスはITシステム構築のための1つの**手段=道具**
その道具を使ってITシステムを**うま～い**こと構築することが目的
すべての関係者が**それぞれの役割を果たす**ことで目的が達成される



旗振り役、鉄人だけではダメなんですよねぇ(多分)

“道具”は“場”を選ぶ

いくら便利な道具でも、使いところを間違えれば怪我の元！

お高い包丁が
あったとして…



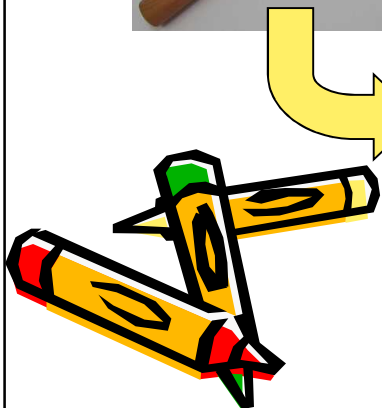
街の料理教室で
指おとすかもね



F1マシンは
速いけど…



砂漠では
きっと遅い

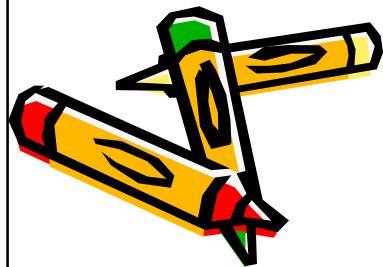


WG立ち上げの経緯

道具は、その道具が活かせる“環境”において真価を発揮する
アジャイルプロセスを適用するなら、それが可能な環境であることが先決

“それが可能な環境”

ってどうやって判断するの？



ということでアセスメントツールWGの活動開始！
時に**2012年春**のことであった。

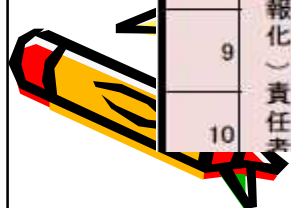


最初の成果物

こんな感じで作ってみた！



No.	質問内容	チェック			
		実施している	一部実施している	実施していない	わからない
1	経営戦略に基づいたIT化(情報化)戦略の方針や計画を考えて決めていますか。				
2	事業機会(ビジネスチャンス)を考慮したIT化(情報化)計画やIT投資(IT費用の支出)を決めていますか。				
3	目先のコストではなく、数年間の売上や利益、市場における影響度などの事業価値からIT投資(IT費用の支出)を決めていますか。				
4	IT投資効果を該当する事業の評価指標(業績、業務改善率、顧客満足度、人材育成)で判断していますか。				
5	ビジネス変化に柔軟にシステムを変化させていくIT投資(IT費用の支出)を行っていますか。				
6	開発プロジェクトのイニシアチブ(主導権)は自分達が持つようにしていますか。				
7	RFP(提案依頼書)に解決すべきビジネス課題および解決した際の期待値を明記していますか。				
8	開発プロセスの妥当性は、ビジネスサイクルとの整合性で判断していますか。				
9	見積の評価に、ビジネスとして得られる価値の評価項目を基準に判断していますか。				
10	開発プロジェクトであっても委任契約を選択することがありますか。				



特徴

簡易版チェックシートの特徴は2つ

特徴1：ロールに着目した設問

くといですが、ITシステム構築は本来総力戦。
みんなでアジャイルと仲良くできないと、どこかで破綻する。
簡易チェックシートでアセスすることで邪魔者が判明します。

特徴2：成熟度評価モデル

イメージはCMMIそのままです。

“環境”の親和性を測るのに成果指標は向かない。
成果を出すための行動指標と考えた方がシックリきます。



“成熟度”評価って？



組織がプロセスをより適切に管理できるようになることを目的として、遵守すべき指針を体系化したもの。

組織がプロセスを定め、洗練していくための手段。

何から着手すべきか

以前に経験したことから得られた成果

共通の言語、ビジョンの共有

実行の優先順位付けの枠組み

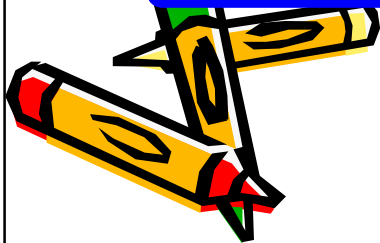
組織にとって改善が意味することを明確にする方法

やった上で改善してる

ぜんぶちゃんとやってる

一部でちゃんとやってる

テキトーにやってる



物差し

今期のWG活動では簡易版を発展させ、正式版の完成を目指します！

簡易版チェックシートはある意味KKDによる無手勝流の定義

“正式版”と銘打つからには誰からも共通理解を得られるモノにしたい
ということで「IPA 共通フレームワーク2013」を物差しとして利用する

ところで…なぜ「IPA 共通フレームワーク2013」か？

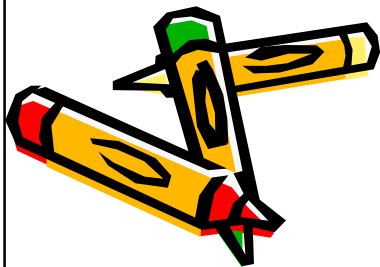
企業が所有するアセットは権利関係がメンドウ

特定のプロセス・メソドロジーに依存したくない

超上流～下流、メインストリーム～周辺プロセスまで網羅

偉い人たちは公的な巻物に弱い

ぶ厚いわりにお手ごろ価格で入手できる



目標

あらためて今期の目標

『アセスメントツール正式版Ver.1』を
作成し、発信する！

更なる努力目標として

アセス結果のFindingsと他WGの成果物を
マッピングする（？）

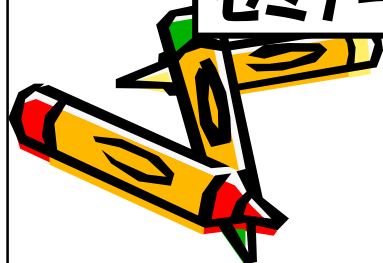
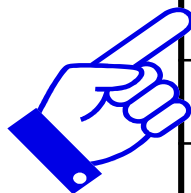


今後のスケジュール

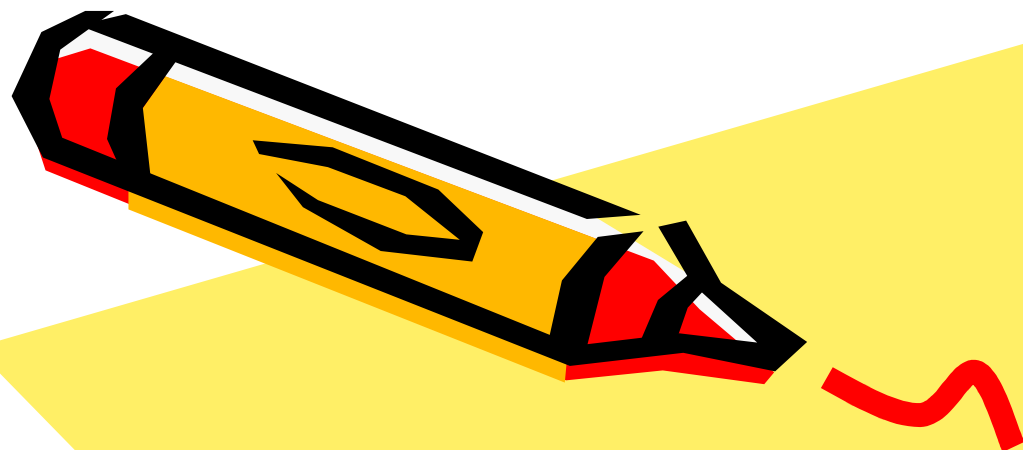


今期の活動予定

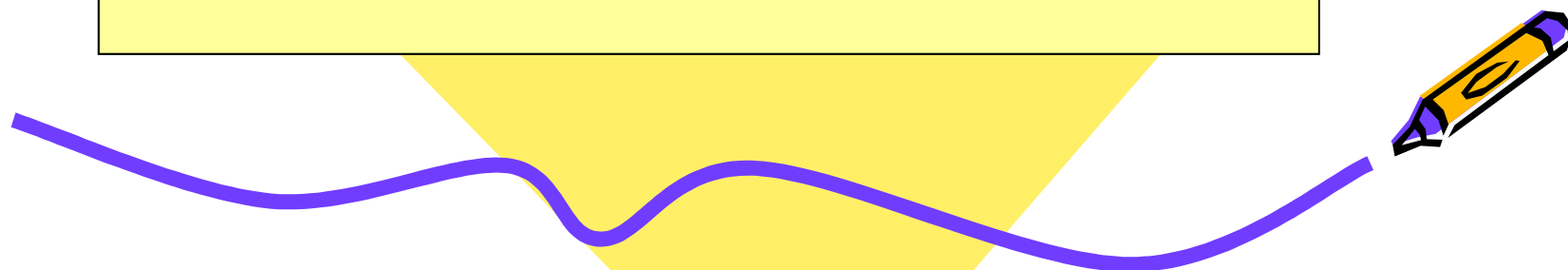
	開催日	テーマ
第1回	2014年4月19日	2014年度協議会キックオフ
第2回	2014年6月頃	作成・レビュー
第3回	2014年8月頃	作成・レビュー
第4回	2014年10月頃	ロール視点での見直し、成果物としての手直し
第5回	2014年12月頃	全体を通じた構成レビュー
第6回	2015年2月頃	セミナー発表準備
セミナー	2015年3月頃	セミナー発表



オフラインでのWG活動は2ヶ月に1回程度開催する予定
それ以外はオンラインでのコミュニケーションが基本



共通フレームワークとは？



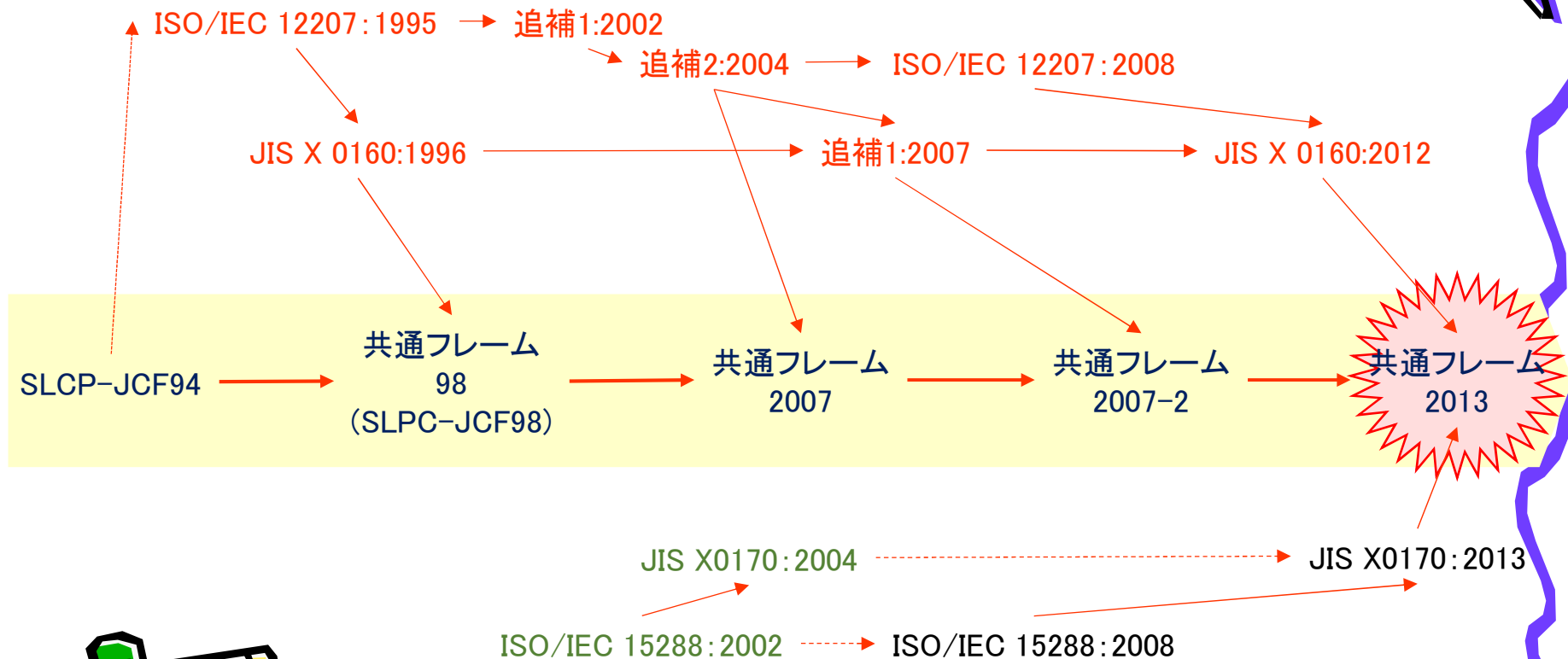
共通フレームとは

- ・ ソフトウェアの企画から開発、運用、保守、廃棄に至るまでの取得者と供給者のライフサイクルを通じて必要な作業項目、役割等を網羅的に策定した共通のフレームワーク
- ・ 何を実施するべきかが記載されている「ITシステム開発に関する実施規定」
- ・ その目的は、日本において、ソフトウェア開発に関係する利害関係者を含む人々が、「同じ言葉で話す」ことが出来るようになるため
- ・ ソフトウェア開発方法論との関係は、特定の開発方法論に特化したものではなく、ウォーターフォール、スパイラル、プロトタイプ、アジャイルなどすべての開発方法論に共通したもの



共通フレームの歴史

ソフトウェアライフサイクルプロセス

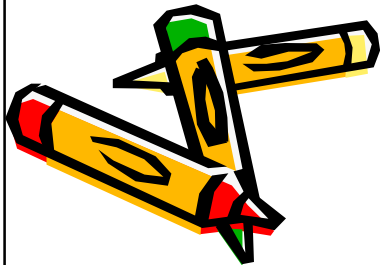


システムライフサイクルプロセス

※ SLCP-JCF : Software LifeCycle Process Japan Common Frame

共通フレームの特徴

- ・ 超上流から考慮されている
- ・ モジュール性を考慮して策定されている
- ・ 責任と責任範囲を明確化している
- ・ 工程、時間から独立している
- ・ 開発モデル、技法、ツールから独立している
- ・ ソフトウェアを中心としたシステム関連作業すべてを含んでいる
- ・ システムライフサイクルプロセスとの整合性を持っている
- ・ 文書の種類、書式を規定しているものではない
- ・ 修整(テラリング)を行い活用する



共通フレームの構造

- ・ 4つの要素が階層化されている
 - プロセス
 - ・ システム開発作業を役割の観点でまとめたもの
 - アクティビティ
 - ・ 相関の強いタスクをまとめたタスクの集合のこと
 - タスク
 - ・ アクティビティを構成する個々の作業のこと
 - 注記
 - ・ タスクを構成する要素のこと。例示としている



共通フレーム2013のプロセス体系

- 合意プロセス
- テクニカルプロセス
- 運用・サービスプロセス
- プロジェクトプロセス
- 支援プロセス
- プロセスビュー
- 組織のプロジェクトイネープリングプロセス
- テーリング(修整)プロセス

- 出典 IPA P43 図2-12 共通フレーム基本構成
- ※ IPA 独立行政法人情報処理推進機構



図2-12

共通フレームの基本構成



□ : 規格部分
 ■ : 共通フレームで拡張した部分

共通フレーム2013全体体系



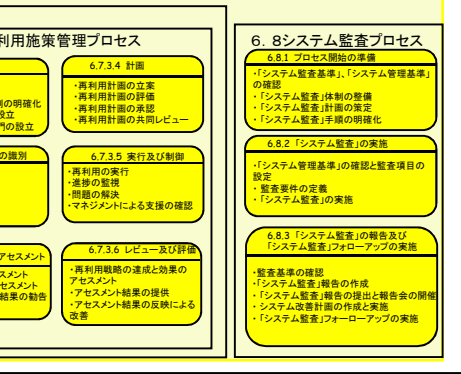
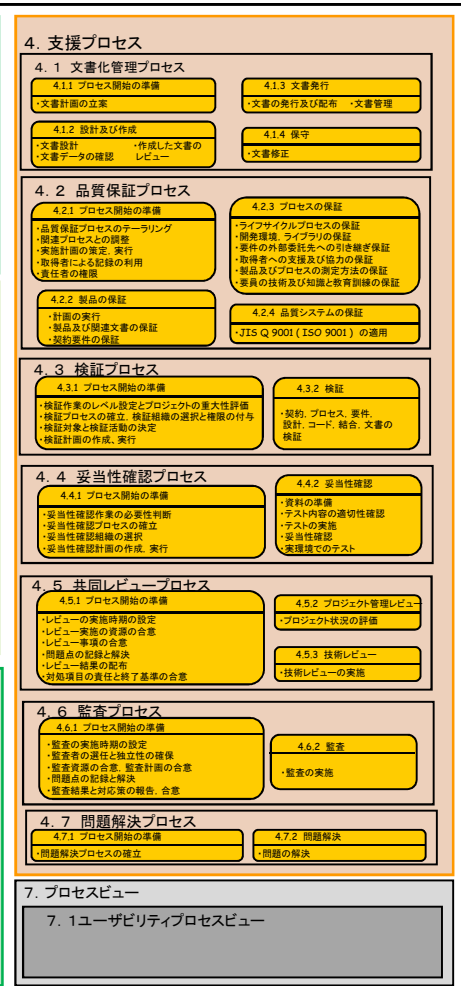
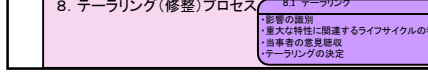
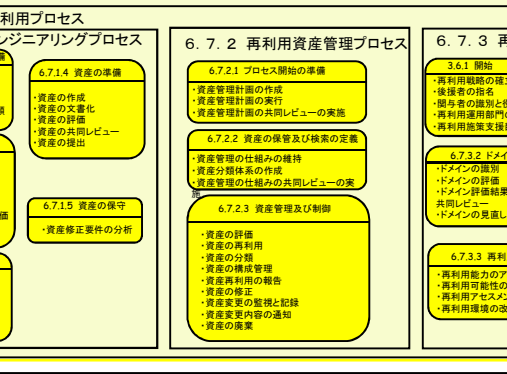
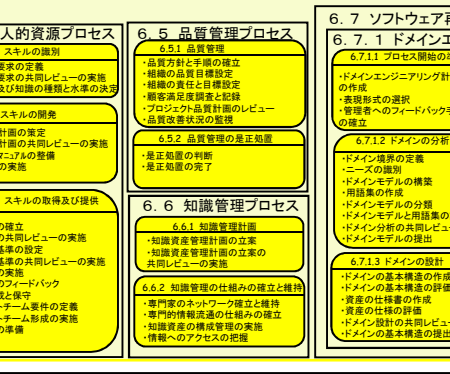
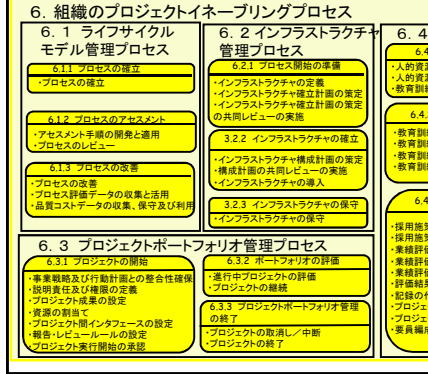
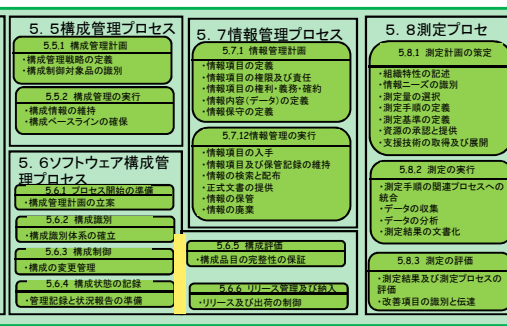
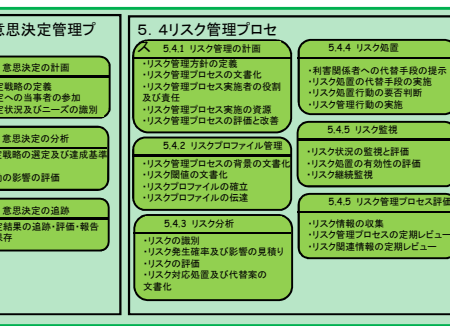
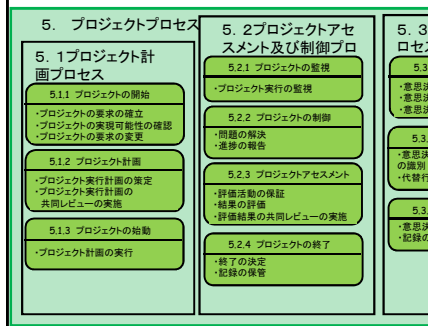
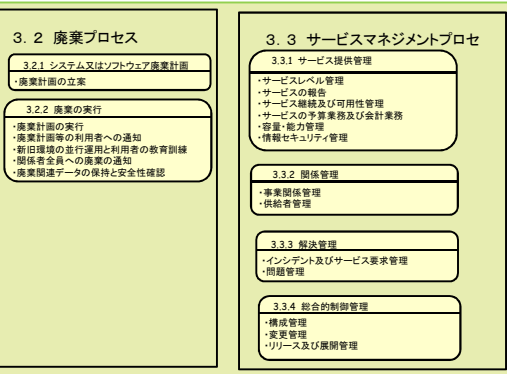
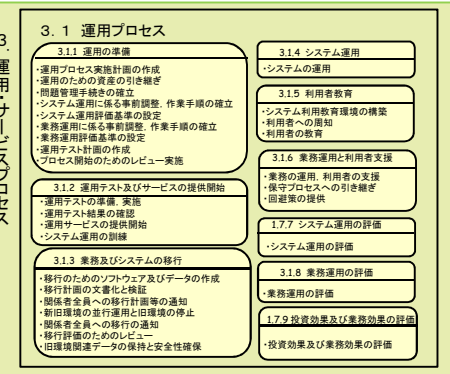
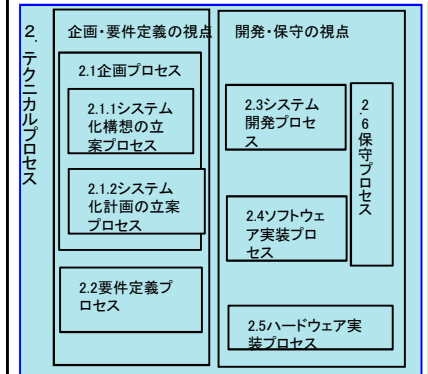
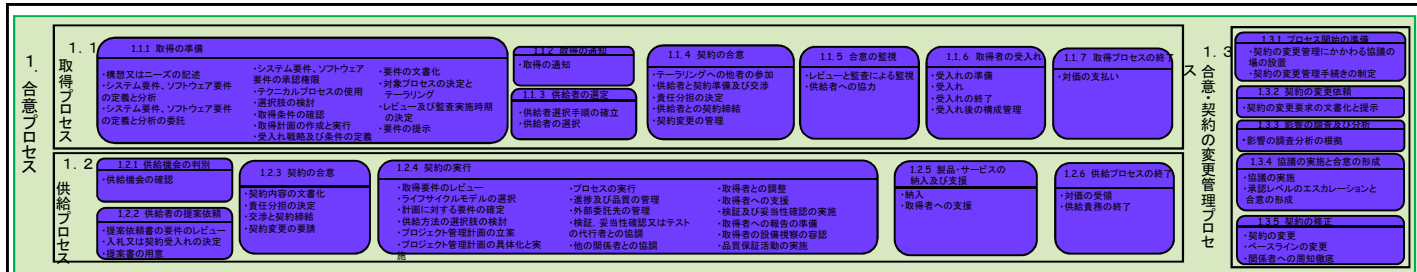
- **全体体系**

- 出典 IPA 巻末_図2-15-1_共通フレーム2013体系

- **テクニカルプロセスの体系**

- 出典 IPA 巻末_図2-15-2_共通フレーム2013体系
- ※ IPA 独立行政法人情報処理推進機構





1. 合意プロセス

2. テクニカルプロセス

企画・要件定義の視点

2.1 企画プロセス

2.1.1 システム化構想の立案プロセス

- 2.1.1.1 システム化構想の立案
 - 経営上のニーズ、課題の検証
 - 事業環境、業務課題の調査分析
 - 現行業務、システムの調査分析
 - 情報技術動向の調査分析
 - 対象となる業務の明確化
 - 業務の新たな体像の作成
 - 対象の選定と投資目標の策定
- 2.1.1.3 システム化構想の承認
 - システム化構想の文書化と承認
 - システム化推進体制の確立

2.1.2 システム化計画の立案プロセス

- 2.1.2.1 プロセス開始の準備
 - 企画作業の組立て
 - 必要プロセスの組み込み
 - 企画環境の準備
 - プロセスの実施計画の作成
- 2.1.2.2 システム化計画の立案
 - システム化計画の基本要件の確認
 - 対象業務の内容の確認
 - 対象業務のシステム課題の定義
 - 対象システムの分析
 - 適用情報技術の調査
 - 業務モデルの作成
 - システム化環境の整理とシステム方式の策定
 - 付帯機能、付帯設備に対する基本方針の明確化
 - サービスレベルと品質に対する基本方針の明確化
 - プロジェクトの目標設定
 - 実現可能性の検討
 - 全体開発スケジュールの作成
 - システム選定方針の策定
 - 責任と役割分担の明確化
 - プロジェクト推進体制の策定
 - 経営事業戦略・情報戦略及びシステム化構想との検証
- 2.1.2.3 システム化計画の承認
 - システム化計画の文書化と承認
 - プロジェクト計画の文書化と承認

2.2 要件定義プロセス

- 2.2.1 プロセス開始の準備
 - 要件定義作業の組立て
 - 必要プロセスの組み込み
 - 要件合意及び承認ルールの決定
 - 要件定義環境の準備
 - 要件定義プロセス実施計画の作成
- 2.2.2 利害関係者の識別
 - 利害関係者の識別
- 2.2.3 要件の抽出
 - 要件の抽出
 - 要件の定義
 - 利用者システム間の相互作用の識別
 - システムの使用が周辺に及ぼす影響への対応
- 2.2.4 要件の評価
 - 導出要件分析
- 2.2.5 要件の合意
 - 要件の問題解決
 - 利害関係者へのフィードバック
 - 要件の確立
- 2.2.6 要件の記録
 - 要件の記録
 - 要件の追跡可能性の維持

開発・保守の視点

2.3 システム開発プロセス

2.3.1 システム開発プロセス開始の準備プロセス

- 2.3.1.1 システム開発プロセス開始の準備
 - 開発作業の組立て
 - 必要プロセスの組み込み
 - 開発環境の準備
 - 開発プロセス実施計画の作成
 - 非納入品目の使用の承認

2.3.2 システム要件定義プロセス

- 2.3.2.1 システム要件の定義
 - システム要件の定義
- 2.3.2.2 システム要件の評価及びレビュー
 - システム要件の評価
 - システム要件の共同レビューの実施

2.3.3 システム方式設計プロセス

- 2.3.3.1 システム方式の確立
 - システムの最上位レベルでの方式確立
 - 利用者文書(暫定版)の作成
 - システム結合のためのテスト要件の定義
- 2.3.3.2 システム要件の評価及びレビュー
 - システム方式の評価
 - システム方式設計の共同レビューの実施

2.3.4 実装プロセス

2.4 ソフトウェア実装プロセス

2.4.1 ソフトウェア実装プロセス開始の準備プロセス

- 2.4.1.1 ソフトウェア実装プロセス開始の準備
 - 開発作業の組立て
 - 必要プロセスの組み込み
 - 開発環境の準備
 - ソフトウェア実装プロセス実施計画作成
 - 非納入品目の使用の承認

2.4.2 ソフトウェア要件定義プロセス

- 2.4.2.1 ソフトウェア要件定義
 - ソフトウェア要件の定義
- 2.4.2.2 ソフトウェア要件の評価
 - ソフトウェア要件の評価
 - ソフトウェア要件の共同レビューの実施

2.4.3 ソフトウェア方式設計プロセス

- 2.4.3.1 ソフトウェア方式設計
 - ソフトウェア構造とコンポーネントの方式設計
 - 各インタフェースの方式設計
 - データベースの最上位レベルの設計
 - 利用者文書(暫定版)の作成
 - ソフトウェア結合のためのテスト要求事項の定義
 - ソフトウェア方式設計の評価
 - ソフトウェア方式設計の共同レビューの実施

2.4.4 ソフトウェア詳細設計プロセス

- 2.4.4.1 ソフトウェア詳細設計
 - ソフトウェアコンポーネントの詳細設計
 - ソフトウェアインタフェースの詳細設計
 - データベースの詳細設計
 - 利用者文書の更新
 - ソフトウェアユニットのテスト要件の定義
 - ソフトウェア結合のためのテスト要件の更新
 - ソフトウェア詳細設計及びテスト要件の評価
 - ソフトウェア詳細設計の共同レビューの実施

2.4.6 ソフトウェア結合プロセス

- 2.4.6.1 ソフトウェア結合
 - ソフトウェア結合計画の作成
 - ソフトウェア結合テストの実施
 - 利用者文書の更新
 - ソフトウェア適格性確認テストの準備
 - ソフトウェア結合テストの評価
 - ソフトウェア結合の共同レビュー実施

2.4.5 ソフトウェア構築プロセス

- 2.4.5.1 ソフトウェア構築
 - ソフトウェアユニットとデータベースの作成及びテスト手順とテストデータの作成
 - ソフトウェアユニットとデータベースのテストの実施
 - 利用者文書の更新
 - ソフトウェア結合テスト要件の更新
 - ソフトウェアコード及びテスト結果の評価

2.5 ハードウェア実装プロセス

2.3.8 システム受入れ支援プロセス

- 2.3.8.1 システム受入れ支援
 - 取得者の受入れレビューと受入れテストの支援
 - システムの納入
 - 取得者への教育訓練及び支援

2.3.7 システム導入プロセス

- 2.3.7.1 システム導入
 - システム導入計画の作成
 - システム導入の実施

2.3.6 システム適格性確認テストプロセス

- 2.3.6.1 システム適格性確認テスト
 - システム適格性確認テストの実施
 - システムの評価
 - システム適格性確認テストの共同レビューの実施
 - 利用者文書の更新
 - 監査の支援
 - 納入可能なシステムの準備
 - 運用、保守に引き継ぐシステムの準備

2.3.5 システム結合プロセス

- 2.3.5.1 システム結合
 - システム結合計画の作成
 - システム結合テストの実施
 - 利用者文書の更新
- 2.3.5.2 テスト準備及びシステム結合の準備
 - システム結合の評価
 - システム結合の準備
 - システム結合の共同レビュー実施

2.4.9 ソフトウェア受入れ支援プロセス

- 2.4.9.1 ソフトウェア受入れ支援
 - 取得者の受入れレビューと受入れテストの実施
 - ソフトウェア製品の納入
 - 取得者への教育訓練及び支援

2.4.8 ソフトウェア導入プロセス

- 2.4.8.1 ソフトウェア導入
 - ソフトウェア導入計画の作成
 - 導入の実施

2.4.7 ソフトウェア適格性確認テストプロセス

- 2.4.7.1 ソフトウェア適格性確認テスト
 - ソフトウェア適格性確認テストの実施
 - システムの評価
 - ソフトウェア適格性確認テストの共同レビューの実施
 - 監査の支援
 - 納入ソフトウェア製品の準備

2.6 保守プロセス

2.6.1 プロセス開始の準備

- 保守に必要な成果物の引き継ぎ
- 計画及び手続きの確立
- 問題管理手続きの確立
- 修正作業の管理
- 保守のための文書作成

2.6.2 問題把握及び修正の分析

- 問題報告又は修正依頼の分析
- 問題の再現又は検証
- 修正実施の選択肢の用意
- 文書化
- 修正案の承認

2.6.3 修正の実施

- 分析と修正範囲の決定
- 修正の実施

2.6.4 保守レビュー及び/又は受入れ

- 修正システムのレビュー
- 完了の承認
- 保守のための文書の更新

2.6.5 運用テスト及び移行の支援

- 運用テストの実施支援
- 移行の実施支援

3 運用サービスプロセス

4. 支援プロセス

7.1 ユーザビリティプロセスビュー

5. プロジェクトプロセス

6. 組織のプロジェクトイネーティングプロセス

8. テーラリング(修整)プロセス

参考 保守プロセスを中心とした、問題解決に関するプロセス関連図

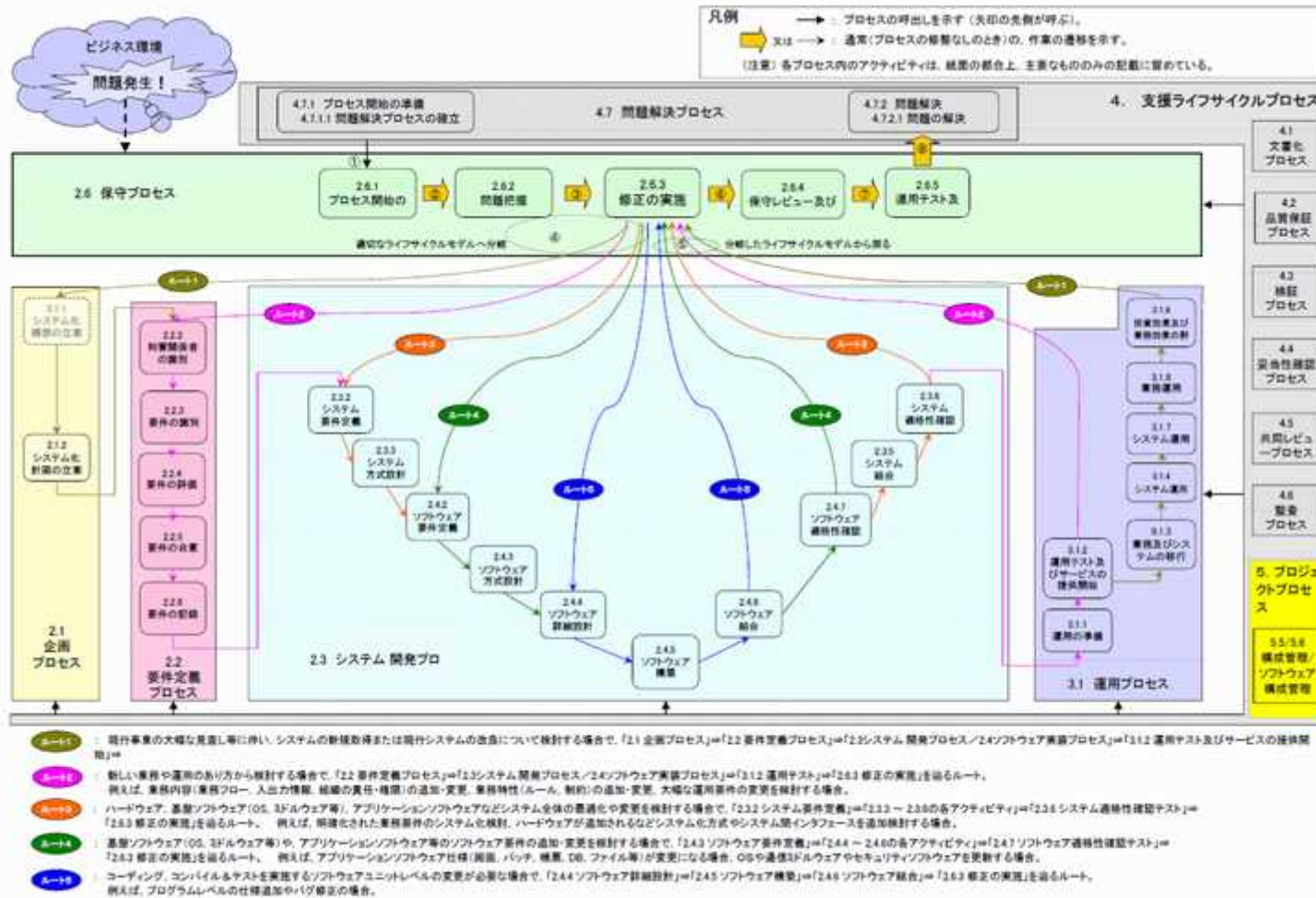


図4-21 保守プロセスを中心とした、問題解決に関するプロセス関連図

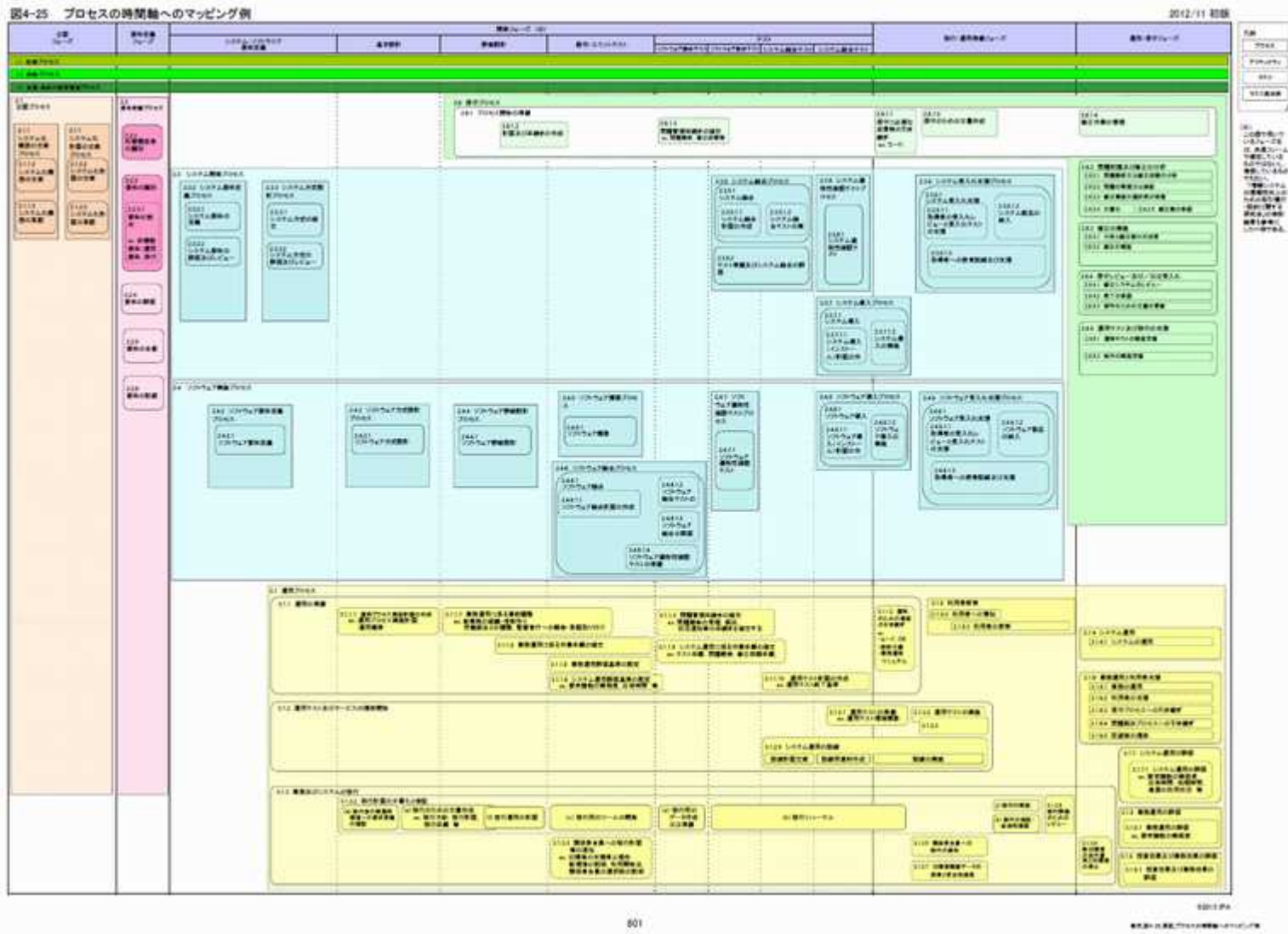
資料 図4-21 保守プロセスを中心とした、問題解決に関するプロセス関連図

出典 IPA 巻末_図4-21_原図_保守プロセスを中心とした、問題解決に関するプロセス関連図

※ IPA 独立行政法人情報処理推進機構



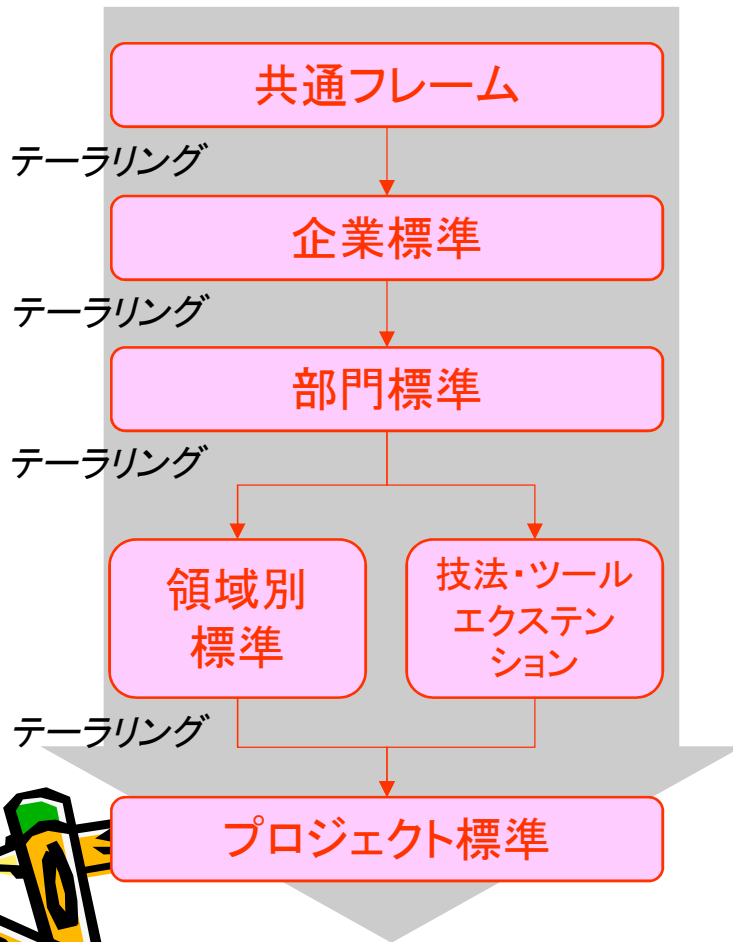
参考 プロセスの時間軸へのマッピング例



出典 IPA 巻末_図4-25_原図_プロセスの時間軸へのマッピング例
 ※ IPA 独立行政法人情報処理推進機構



テーラリング(修整)を行って利用する



- ・ 共通フレームをそのまま適用するのではない
- ・ 組織(企業)やプロジェクトの特性(例えば開発モデル)に合わせ、共通フレームで規定されているプロセス/タスクを拒否/拒する
- ・ 繰り返し実行できるように、又は複数をつらぎって実行できるように組み替えたいし、で利用する



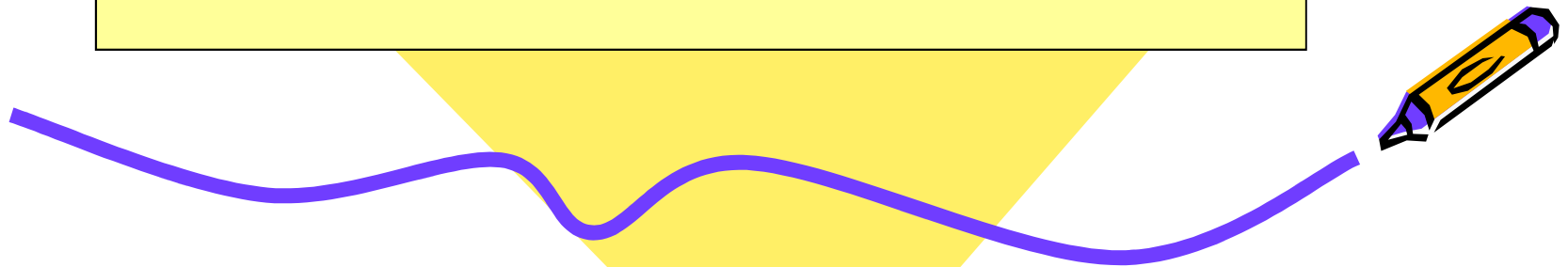
テーラリング(修整)を行って利用する

- ・「共通フレームで規定されている事を、すべて実施する」ということではない
- ・「共通フレームで規定されている事」を、妥当と客観的に評価できる場合には、省略してもよい
- ・「共通フレームで規定していないこと」を、組織(企業)標準やプロジェクト標準に必要と判断した場合は追加してもよい





**こんなアセスメントツール
を作りたい！**



概要

- ・これから作っていくので当然ながらモノはない
- ・簡易版を発展させるので、“ロール”の考え方は踏襲する
- ・『共通フレームワーク2013』のプロセス視点を加える
- ・成熟度は4段階で表現する(CMMIもそうだし…)

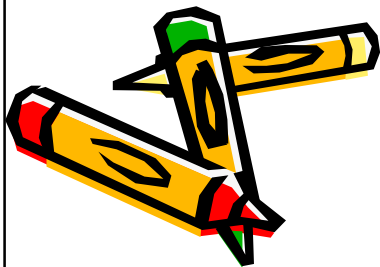
Level 0: みんなが勝手に動いてる いわゆるカオス

Level 1: 一部でやってるけど一時的 Prn→Do→End

Level 2: なんとなく継続中 Prn→Do→Do→Do→…

Level 3: 改善が回ってる Prn→Do→Check→Action→Prn…

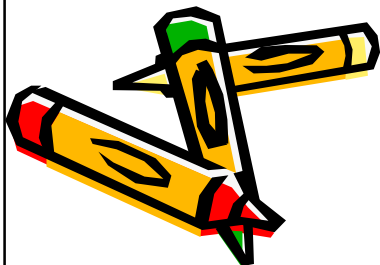
- ・設問数は多くても200以内に押さえない!



ロールの定義

ITシステム開発、運用の観点で主要なプレイヤーを抜粋

- 経営者
- 情報システム部門責任者
- プロジェクトマネージャ
- 開発者
- 事業部門ユーザー



他に必要なロールある？

プロセスの定義

『共通フレームワーク2013』より以下のプロセスを抜粋

- 合意プロセス
- テクニカルプロセス(企画・要求定義の視点)
- テクニカルプロセス(開発・保守の視点)
- 運用サービスプロセス
- プロジェクトプロセス
- 組織プロセス
(ライフサイクル/インフラ/プログラム/リソース管理)

修正プロセス

- 支援プロセスは除外
- プロセスレビューは除外



フレーム

まとめると、こんな↓フレームになるはず

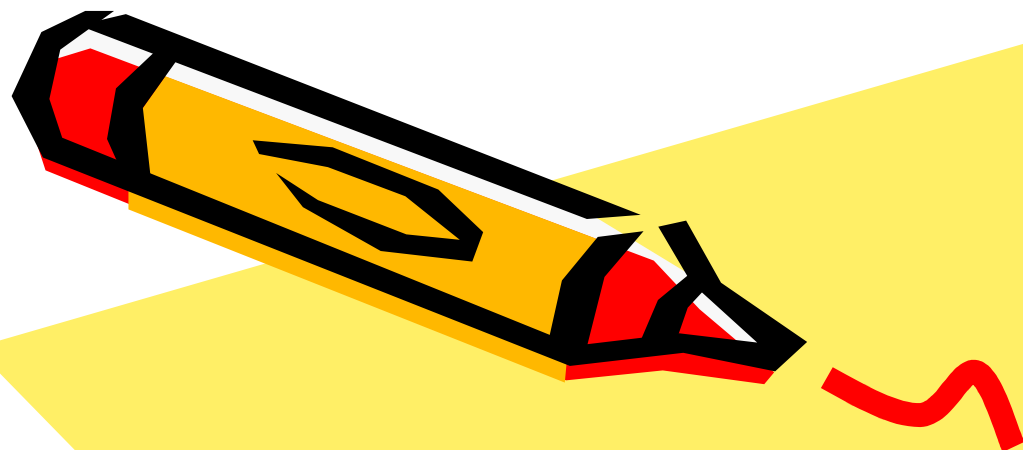
分類			成熟度を問う設問			
大項目	中項目	小項目	Level0	Level1	Level2	Level3
プロセス	サブプロセス	ロール	選択文	選択文	選択文	選択文
例えば...						
プロジェクト	プロジェクト計画	PM	てきとー	オレ様流	アセット	最新版

『共通フレームワーク2013』にはサブプロセス以下も定義されている
→必要に応じて備考的にリファーするにとどめる
レベルごとに“それっぽい”選択文を用意する

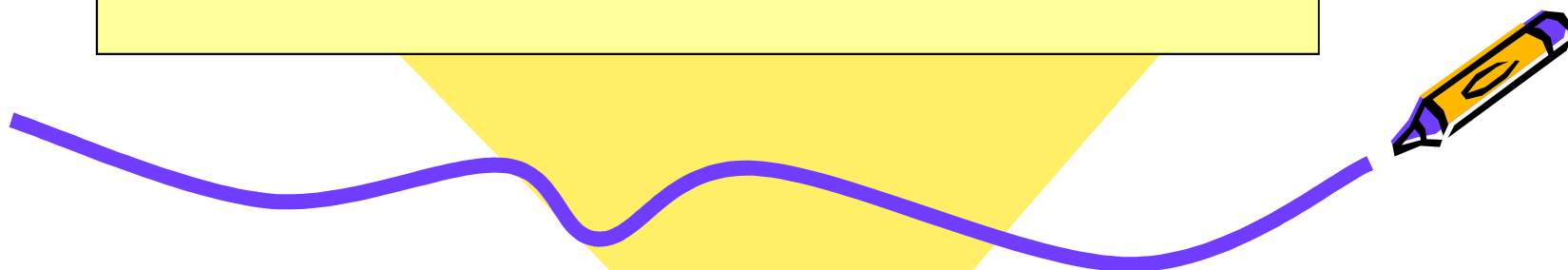


重要なポイント！
やってみてシッカリこななければ考え直す！？





『共通フレームワーク2013』
勉強会のご案内



実施形式

- ・基本的には読書会として運営
- ・輪読中心ではなく、事前学習と当日のディスカッションを主体とする

目的

- ・『共通フレームワーク2013』の趣旨を理解する

目標

- ・超上流から下流まで、体系的なマネジメント知識を習得する
- ・格好の良い提案書や力千とした論文を書けるようになる
- ・プロジェクトの作業工程に対する外部(PM0など)からのツッコミに強くなる
- ・“偉い人”(事例やお墨付きが大好き)と臆せず会話ができる



主たる対象者

- ・ユーザー側で情報システムの企画・開発・運用に関わっている人
- ・何らかの形で情報システムのマネジメントに関わっている人
- ・ベンダー側の立場で顧客と会話する必要がある人

進め方

- ・第1回のみ共通フレームワークについて講義を行う(講師:新保)
- ・第2回以降は読書会形式
- ・事前に各自で対象範囲を読書し、議題候補を考えておく
- ・当日、議題を出し合って議論する(2題ていどを想定)
- ・議題が多数挙げられた場合、冒頭で検討議題を選出する

開催日程

- ・第1回をゴールデンウィーク明けに開催予定(要日程調整)
- ・以降、月1回の開催を目指す





参加条件

- ・会員、非会員は問わないオープンな場です
- ・自宅で読書ができて、月1回くらいは集まっても良いと思える人
- ・何らかの手段で『共通フレームワーク2013』を入手できる人

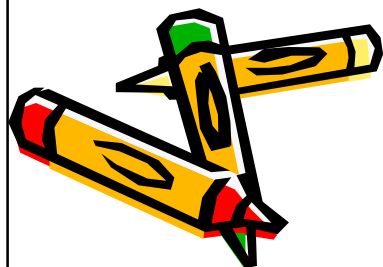
情報共有

- ・勉強会での成果物は全員で共有します
- ・コミュニケーション手段は基本的にメールです

参加表明

- ・積極的、消極的のいかなを問わず、意欲のある方は↓のアドレスより挙手！

http://www.wjapc.jp/index.php?option=com_jforms&view=form&id=1&Itemid=4



The screenshot shows a web browser displaying a registration form for WJAPC. The page title is "WJAPC 一般社団法人日本アサインメントプロセス協議会". The form includes a "お問い合わせ" (Contact Us) section with fields for "名前" (Name), "メールアドレス" (Email Address), and "お問い合わせ内容" (Contact Us Content). There is also a "送信" (Send) button. On the right side, there is a "最新情報" (Latest Information) section with a list of items and a "検索" (Search) field. The footer contains "Copyright © 2013 WJAPC. All Rights Reserved." and "Powered by Joomla! 3.8.5.1 and CSS3".



End of File

ご静聴、ありがとうございました

